

第4回 清瀬市地域づくり応援制度検討委員会 会議録

1 開催日時

令和5年12月25日（月）18時30分から19時30分まで

2 場所

清瀬市役所3階 会見室

3 会議内容

(1) 開会

(2) 第3回会議の会議録の確定

各委員異議なし。第3回会議の会議録が事務局提示内容にて確定となった。

(3) 提言書（案）について

提言書（案）について事務局から説明を行った。

(4) 地域づくりの課題についての意見交換（提言書（案）をふまえて）

各委員により意見交換を行った。概要は以下のとおり。

・活動資金は必要だが、人材がいない、地域活動のリーダーがいないといったところが提言書（案）の中で少し弱いのではと感じた。地域の市民に任せきりにするのではなく、広域的な取り組みについて入れ込んでもよいのでは。

・専門家が入って支援体制ができてくるとよいのでは。

・人材のところをもっと強く書いていくとよいのでは。

・専門家との会議もあるとよいのでは。

・人材の掘り起こしについて。今までやってきていた人でなく、それ以外の人を発掘したい。なんでもやりますというような地域活動をやってもいいという人の名簿があるとよいのではないか。

・情報の発信が大事だと思う。地域活動の報告会や説明会も良いが、地域活動にこういう団体がありどんな活動を行っているなど、わかりやすく情報をまとめて市のホームページにアップしてということがいいのではないか

と思う。

- ・プラットフォームの部分でイメージすることはあるか。
- ・事務局 こうだと決まったものはない。内部で検討していく中でつめていきたい。広くとらえて検討していきたい。

- ・現状の課題認識の部分で、地域活動の担い手不足、地域活動者の高齢化、新たな担い手の発掘が課題となっているということを提言書に記載すべき。
- ・自治会組織率と書いてあるが、加入率の方がよいのでは。
- ・自治会のことだけでなく、その他多様な地域活動が行われているが、担い手の高齢化などが課題という書きぶりがよいと思う。
- ・地域課題については重層的で、いろんな複合的な困りごとがある。自治会が機能すれば解決するという話ではない。

- ・担い手の高齢化、新たな人材の掘り起こし、人材不足の取組というところが課題だと思う。また、プラットフォームは思いをもった人が合流していくというようになるとよい。

- ・他の地域で実施している住民アンケートを実施するというのも入れてもらえるとよい。そのアンケートの実施により集まった人たちが地域のプラットフォームの運営に携わり、地域活動が活性化していくというようになると良い。

- ・地域活動のプラットフォームは、公民共同による地域づくりのプラットフォームというような書きぶりにすると専門職にも入ってもらってというような意味合いになると思う。また、学びの人と働きにきている人とが入っていけるような、一緒に地域づくりをしていけるようなものになるといい。市の地域福祉計画に掲げられているような小学校単位のプラットフォームを掲げてみてもよいのではないか。市の地域福祉計画では35ページに、社協の方では13ページに記載されている。

- ・プラットフォームとだけ書いてしまうと、社協がいつているプラットフォームというふうになりかねない。そこで、提言書の書きぶりとしては、『これまで積み重ねてきた地域づくりの実績をふまえてこれからの時代に対応させて新たなプラットフォームに発展させていく』というような書きぶりがよいのではないかと考える。

・情報発信も大事だと思う。地域活動に関するポータルサイトの整理をしてほしい。市の地域活動を横断的に紹介しているようなものがあるといい。

- ・地域活動報告会のようなものがお祭りのような形でできたらいい。
- ・コロナの前に、社協で実施しようとしていた地域活動の合同説明会のようなものは「清瀬で地域デビュー」という名称で考えていた。
- ・見本市という言葉を使っているものもある。
- ・マッチングイベントという言葉を使っているところもある。
- ・わくわくするようなバザーなど、楽しさがあってというのがよいのでは。

- ・社協が福祉まつりをやっていると思うが。
- ・社協の福祉まつりは取組紹介がメインのもの。参加者募集ということは、また別でやってもいいかもしれない。

・健康大学の後に、ブースを設けて介護予防等というテーマでマッチングイベントをやろうということになっている。

- ・地域活動フェスティバルのような名称もよいのでは。
- ・日本社会事業大学の学生もいろんな活動をやっている。それを知ってもらう機会があまりない。知ってもらえれば、いろんなコラボができると思う。コミュニティフェスタのような名前でもよい。
- ・市民祭りで民生委員のブースを出すのがうまくいかない。
- ・ふれあいまつりは、スタンプラリーのようなイベントにより、いろいろな箇所を回るようになっている。やり方次第な部分もあると思う。

- ・既存の事業とタイアップするというのもよいのでは。
- ・地域づくりを担当している人たちの連携が取れると良いと思う。多様な分野の地域づくり連携会議を開催してほしい。

・プラットフォームのイメージだが、地域づくりで大事にしているのは、地域にいる人が、今地域で何が起きているかがわかるというのが大事だと思う。どんな地域の課題があるかがわかる。また、それについて話し合う場があるかどうか。そして、新たな活動を生み出していける場があるかどうか。課題を知るというところがないと思っただけで動いていくということになる。公民連携のプラットフォームにそのような機能があるといい。

- ・一方向だけでなく、困っている人がそこに相談できて解決できるといい。社会福祉法人の専門家が入っているといい。

- ・孤立孤独などの課題もある。役割があるというのが大事。
- ・地域福祉コーディネーターを充実させていたくというのも重要だと思う。

(4) その他

次回日程等について事務局より報告をして閉会となった。